



マクロ経済学A

第10回 貨幣とは



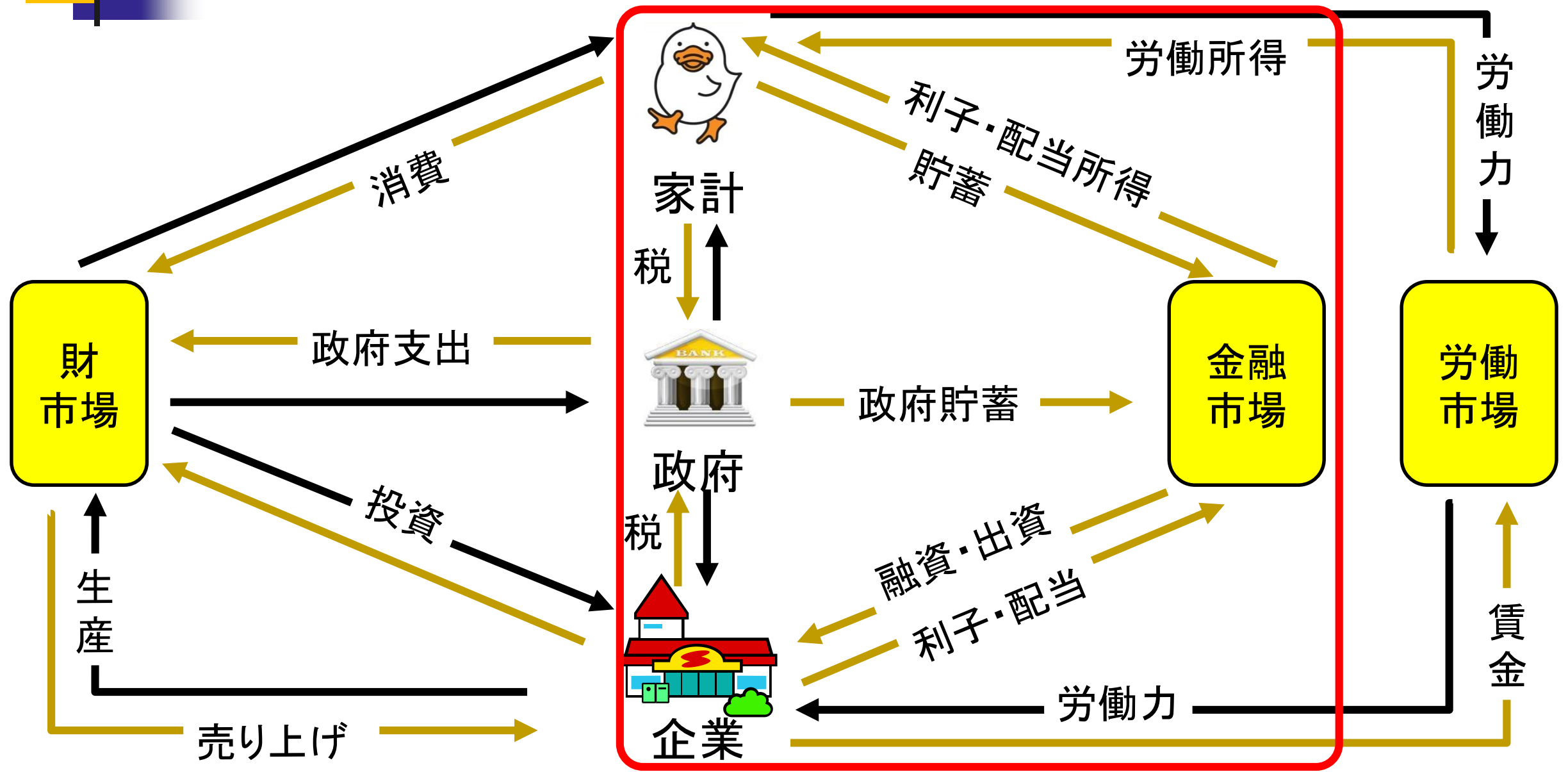
この授業の内容

- ① 貨幣の3つの機能
- ② 貨幣の種類 M1
- ③ 貨幣の種類 その他



① 貨幣の3つの機能

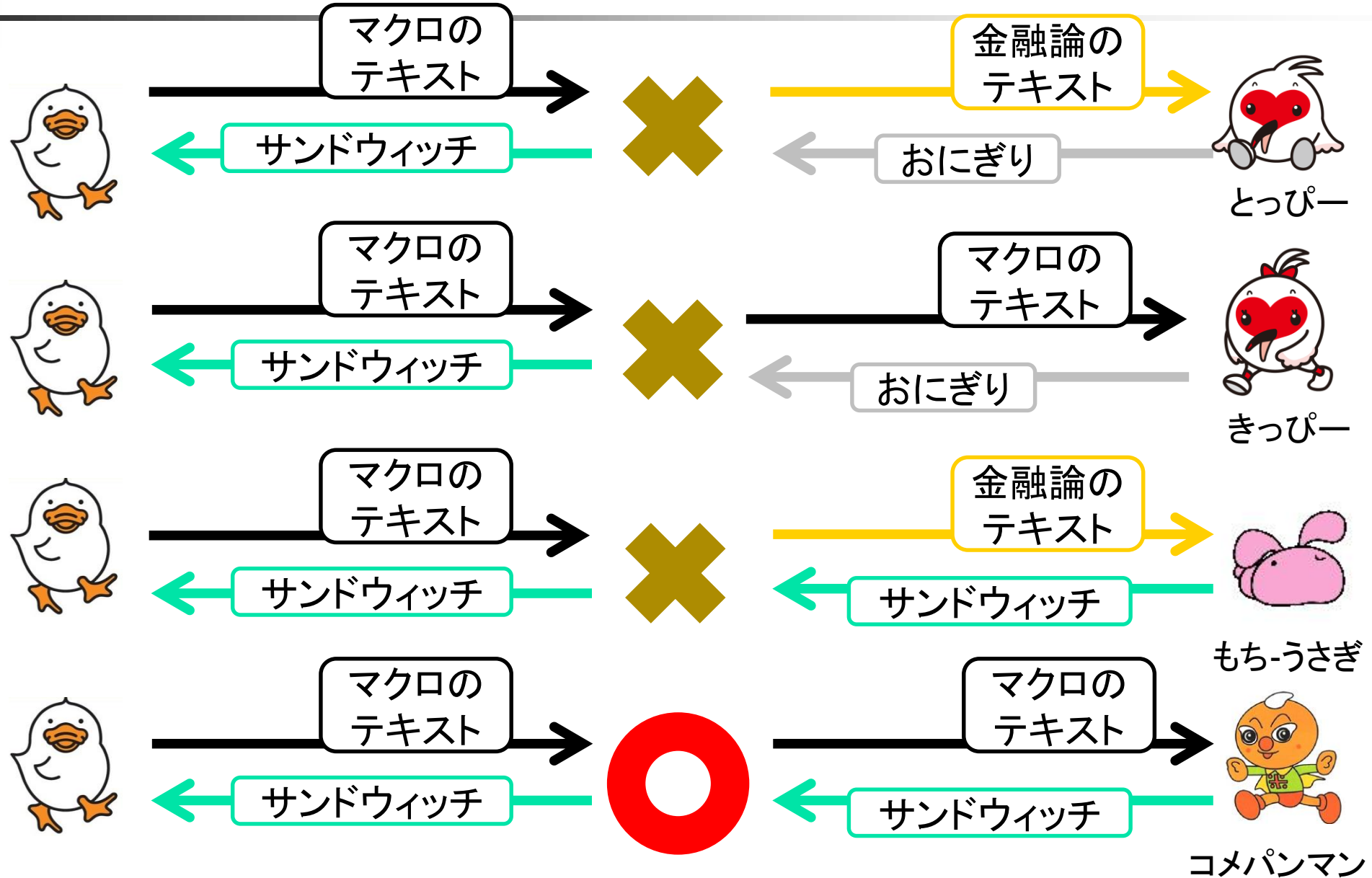
経済主体と市場の関わり



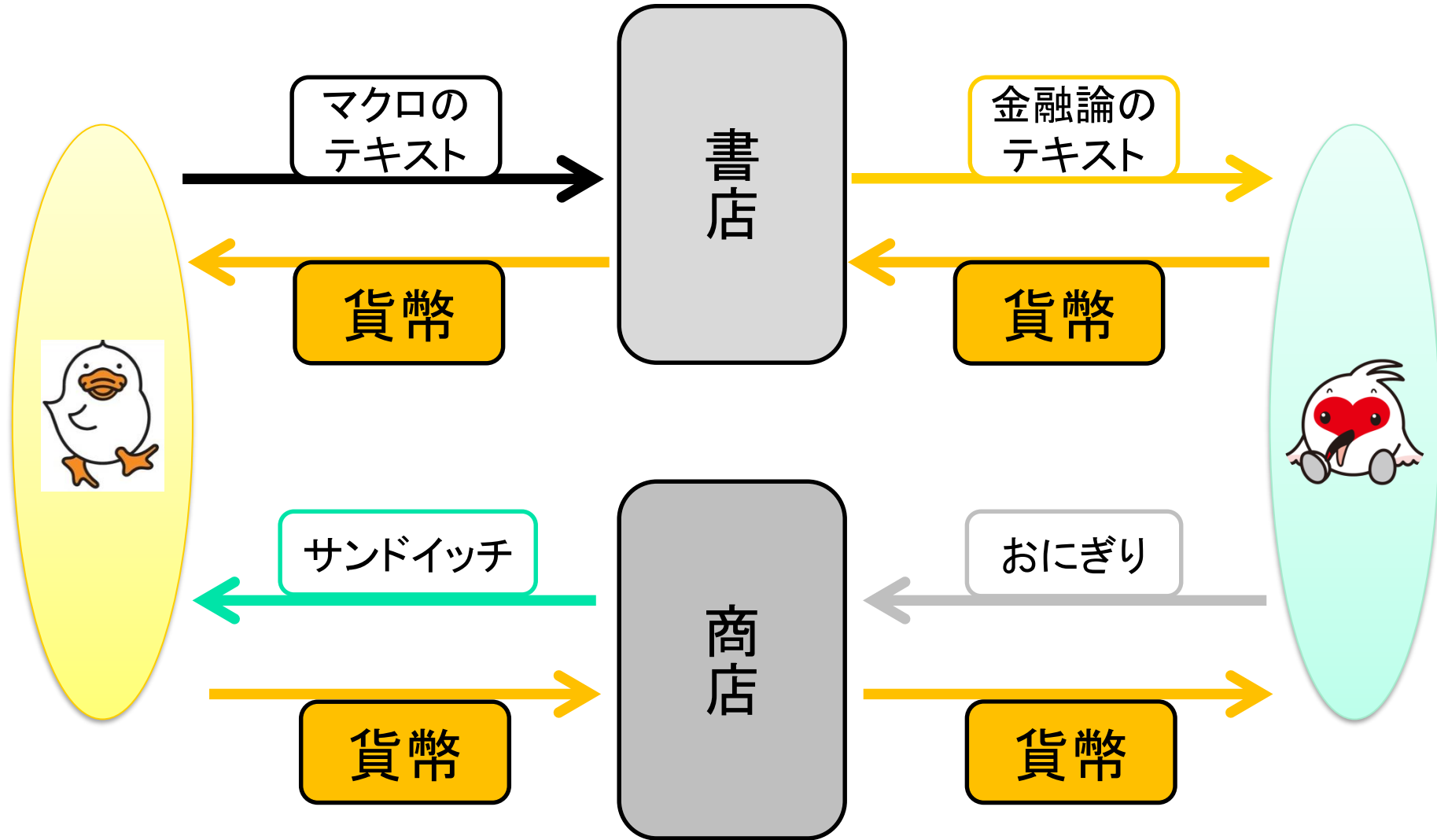
1. 交換媒介機能

- 貨幣が存在しない世界における経済（物々交換経済）において交換が行われるためには、取引当事者間で欲望の二重の一致の成立が必要
- 欲望の二重の一致とは
 - 自分が買いたいモノと相手が売りたいモノが一致
 - 自分が売りたいモノと相手を買いたいモノが一致

物々交換経済（欲望の二重の一致）



貨幣経済



2. 価値尺度機能

- 交換の際、財・サービスの価値を測定する尺度となる
- 貨幣（価値尺度手段）が存在しないと、様々な表示の価格が併存し、比較が困難

価値尺度機能の解釈

もし貨幣がなかったら・・・

- にいがた地鶏1羽 = 小麦粉500g
 - 新潟産こしひかり10kg = みかん10個
- 地鶏と米のどちらの方が価値があるのだろうか？



もし貨幣が存在したら・・・

- にいがた地鶏1羽 = 2700円
 - 新潟産こしひかり10kg = 4900円
- 新潟産こしひかり10kgの方が価値が高い

両者の価値を貨幣で測ることで、どちらが高いか判断できる

貨幣の機能 3

3. 価値保存機能

- 将来の消費に必要な価値を保存（時間の経過に伴う価値の劣化を防ぐ）

- 例）1 ヶ月分の給料を全部さかなでもらった（10 万円相当）

- 貨幣のない経済



- さかなのままで手元に置いておくと、時間の経過とともに腐る＝ 価値が劣化する

- 貨幣の存在する経済

- 手元のさかなを等価値の貨幣に替えておき、時間が経過してからその貨幣で新鮮なさかなを購入

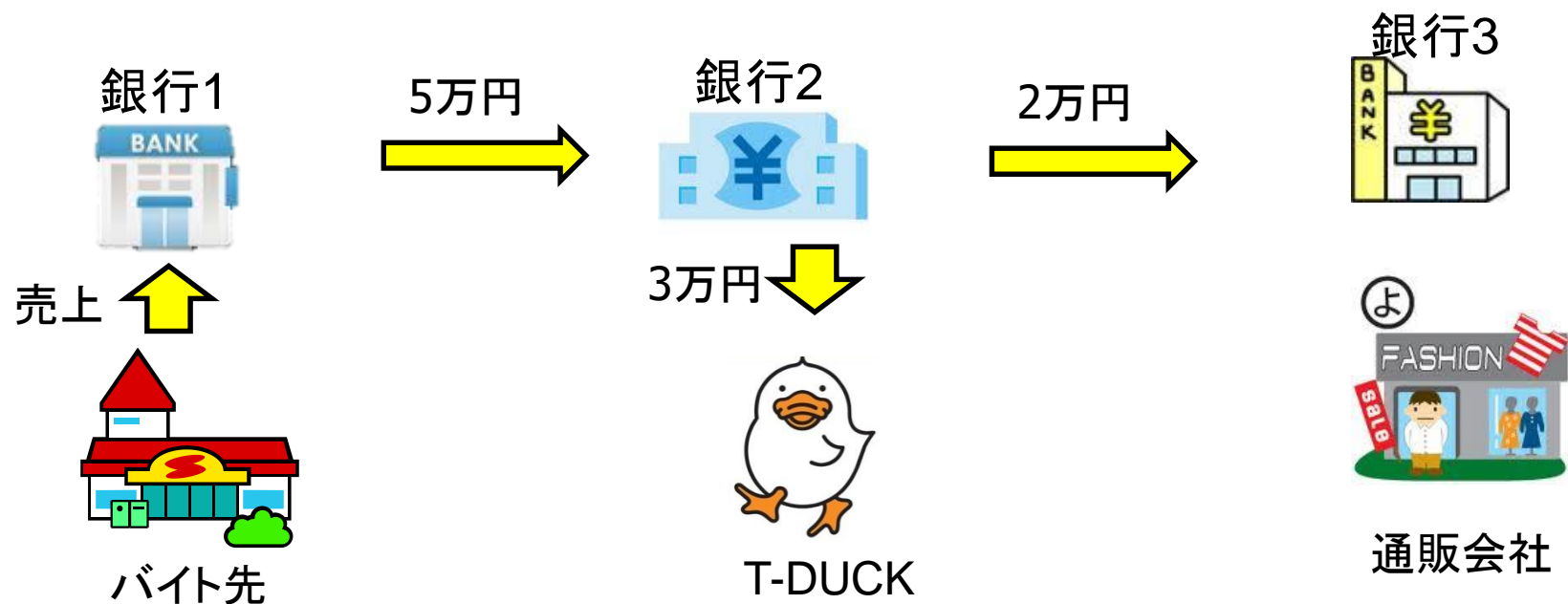


② 貨幣の種類 M1

貨幣の種類

T-DUCKちゃんのアルバイト

- 4月のバイト代5万円が銀行1のT-DUCKの口座に振り込まれた
- T-DUCKは通販で新しい帽子と服の合計2万円を購入 ← 指定の銀行3に振込み





貨幣の種類

現金通貨

紙幣や硬貨

- 紙幣は日本銀行が発行
- 硬貨は日本政府が発行

預金通貨

銀行の預金

- 普通預金と当座預金
(定期預金は除く)

預金通貨の増え方

- T-DUCKが銀行に100万円預金すると・・・



今回の例では、**100万円**の現金通貨に対し、
預金通貨は合計で**1,000万円**増加

貨幣の定義：貨幣の種類

M1

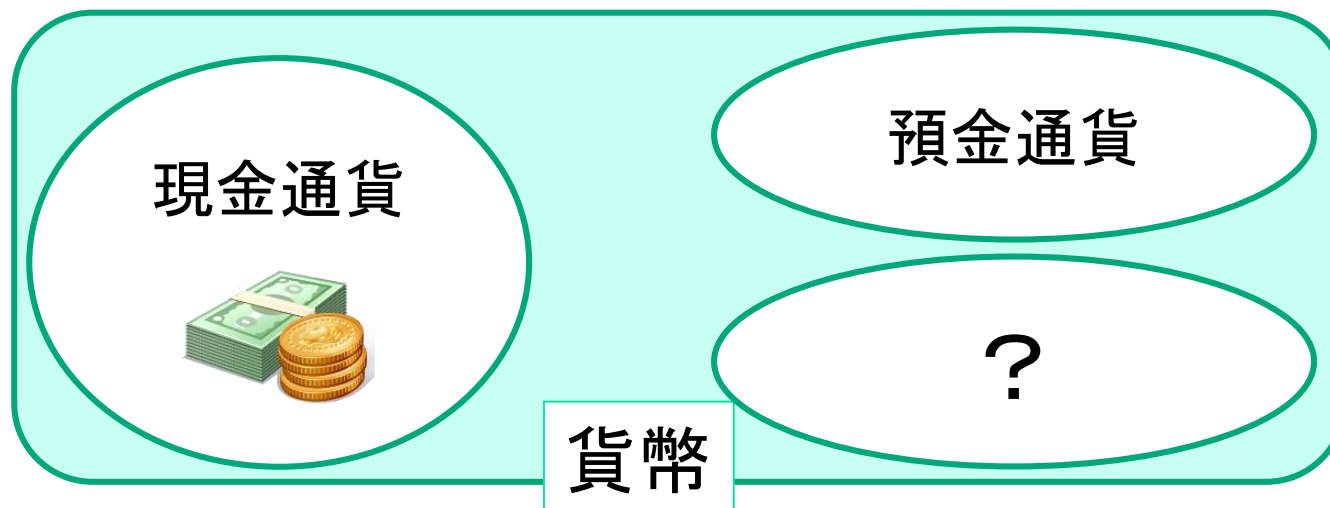
現金通貨

1万円札などの紙幣、500円玉などの硬貨

預金通貨

当座預金や普通預金

様々な支払いに利用され、企業では一般的に使われる





③ 貨幣の種類 そのほかの貨幣



貨幣の定義：貨幣の種類

準通貨

定期性預金，定期積立，外貨預金など

口座から支払いはできないが，解約によって支払いに充てることが可能

CD（譲渡性預金）

無記名の定期預金証書で，他人に譲渡可能

M2

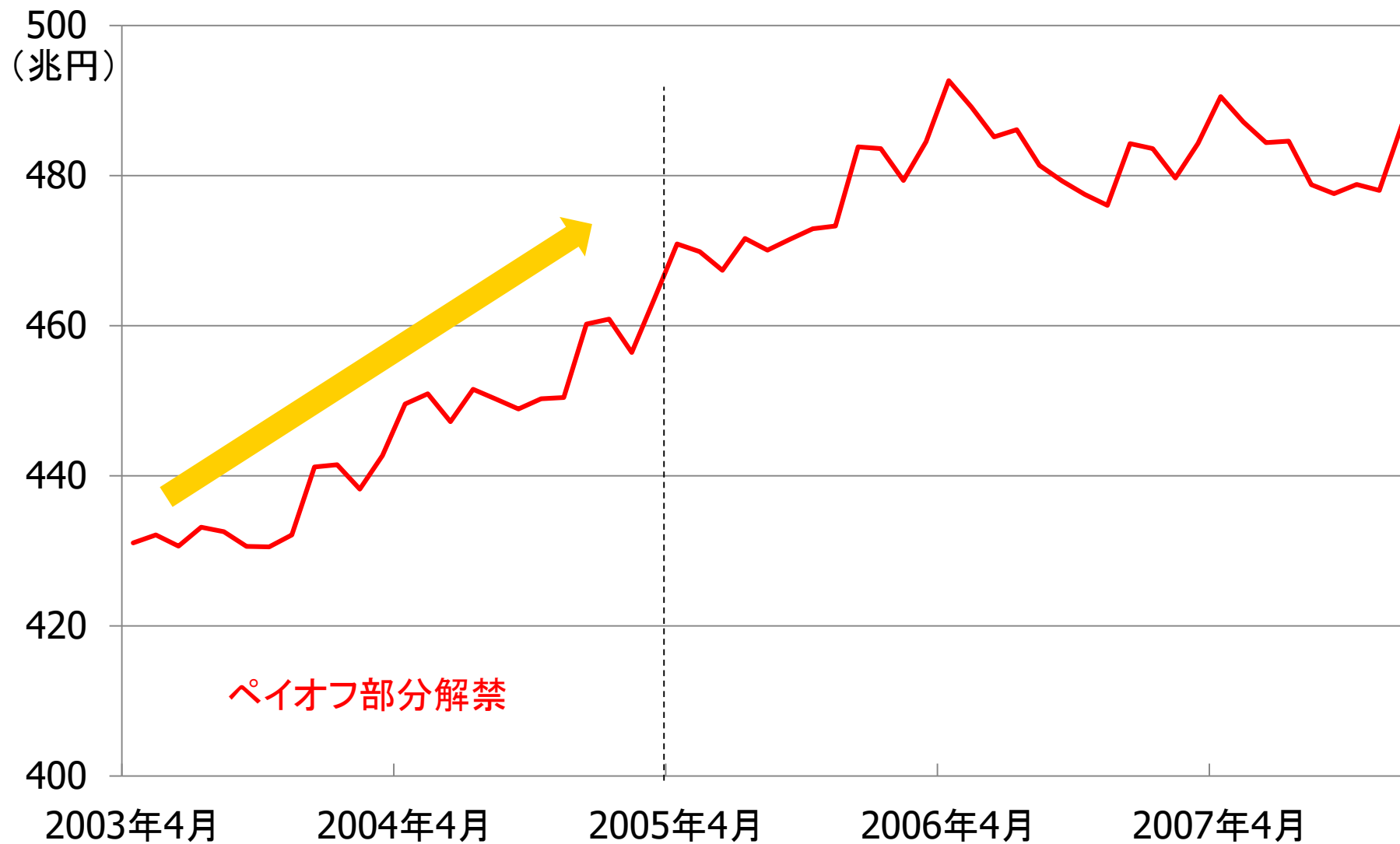
M1（ゆうちょ銀行除く） + 準通貨 + CD

M3

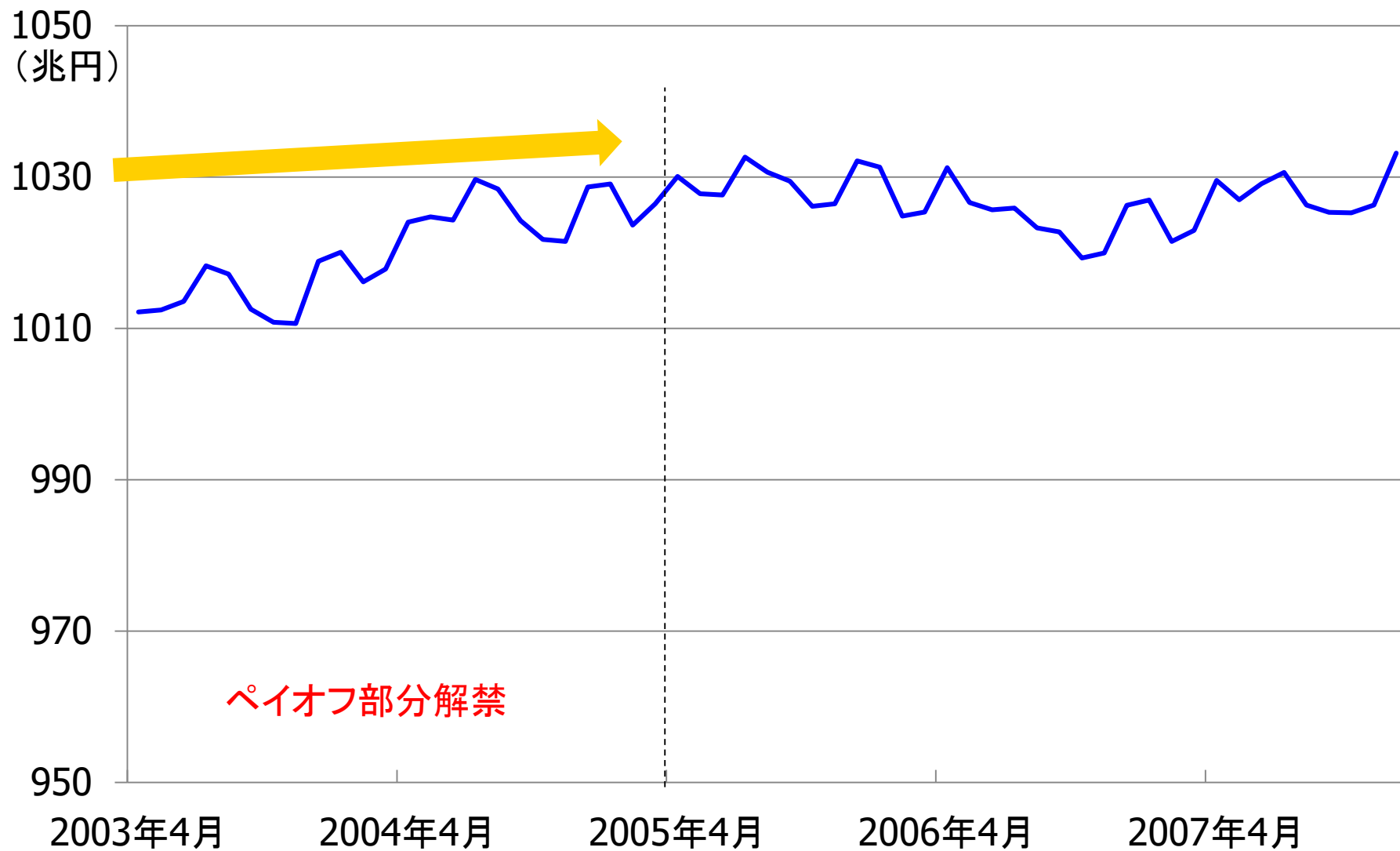
M1（ゆうちょ銀行含む） + 準通貨 + CD

単一の貨幣の定義では経済の状況を十分にとらえきれないため，必要に応じて様々な貨幣を使い分ける

貨幣の定義：M1の推移



貨幣の定義：M3の推移





この授業で学んだこと

貨幣の3つの機能

交換媒介機能、価値尺度機能、価値保存機能

貨幣の種類 M1

現金通貨、預金通貨、信用創造

貨幣の種類 その他

M2、M3、広義流動性